

シマノ創立90周年:4府県に稚魚25万尾

神奈川の栽培漁業支援も視野に

㈱シマノ(島野泰三社長)では、創立九十周年記念事業の一環として、マダイの稚魚二十五万尾を八月中旬に神奈川、大阪、山口、熊本の四府県で放流した。十一日(木)には三浦半島・城ヶ島にある神奈川県栽培漁業協会でマダイ協力の贈呈式と同協会が取り組んでいる種苗放流事業等の現状説明が行われた。東京湾や相模湾を主体とするマダイの放流に伴う協力金制度は十年前に比べると半減し、釣魚資源を確保する上で厳しい局面を迎えている。同社はこうした状況を憂慮し、放流事業の支援や地域への謝恩、業界発展を目的に実施した。

島野釣具事業部長の代表し高橋哲也氏、永陣にお礼を述べるとともに挨拶、健康と喜びに貢献、浜いりあさん、流川ミサに、大要次のように挨拶を。

稚魚放流式典には同社をはじめに同社を代表し「株式会社シマノは皆や同協会の関係者に加え、て釣具事業部長の島野泰三様のご支援により創立九十周年を迎えることになりました。」



小網代でマダイの稚魚を放流する㈱シマノの島野泰三釣具事業部長ら関係者

りました。この度、私も釣具事業部としてはこの神奈川県を皮切りに、大阪、山口、熊本の四府県で稚魚放流事業を実施します。

当社は、人と自然のふれあいの中で新しい価値を創造し、健康と喜びに貢献する使命を持って日々活動をしています。今回の稚魚放流は自然に対する感謝の気持ちと百年、二百年後にも変わらぬ環境保全、自然保護の観点からの取り組みです。また、各地で行われている栽培漁業の取り組みに対して、当社は地域社会貢献の一端を担えればと考えています。

今回、神奈川において大変人気の高いマダイ釣りがこれからも多くの釣り人の皆様方に楽しんでいただけますよう、神奈川県栽培漁業協会のご尽力を得てマダイ稚魚十萬尾相当を放流させていただきましたことになりました。私どもは百周年、二百年を迎えるときにも人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康と喜びに貢献する企業であり続けることを誓います。

◇マダイ協力金の目録贈呈

次に、島野取締役から同協会の後藤勇理事長にマダイ協力金の目録が贈呈された。また、後藤理事長から同社に感謝状が手渡された。

同社は長年にわたり同協会の事業を支援しており、後藤理事長から謝意が示された。

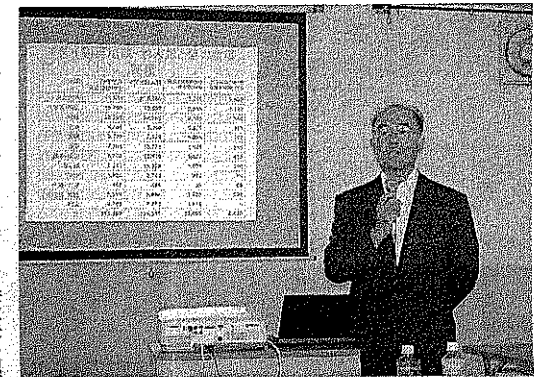
続いて、同協会の今井利為専務理事が寄付に対するお礼を述べるとともに、神奈川県沿岸における稚魚放流の現状などを説明した。(後掲参照)

◇小網代でマダイ放流 このあと、三崎町の小網代に移動し、海上からマダイ稚魚放流のセレモニーが行われた。稚魚はこの春に孵化し、中間育成された種苗で平均体長は6.5cmほど。

島野取締役と同社インストラクターら、後藤理事長が「元気に育って...」とバケツから次々に放流すると稚魚は元気に水中へと散っていった。

小網代には同協会が種苗の中間育成を行っている網イケスがあり、放流のあと出荷を待つ稚魚の様子を観察し、放流式典を終了した。

なお、神奈川に続き大阪・せんなん里海公園、



①栽培漁業の現状を説明する今井専務理事、②網イケスを見学する報道陣

山口・下関市立しものせき水族館、熊本・上天草市産物館さんばるで各五万尾、総計二十五万尾の稚魚放流を行った。

【神奈川の栽培漁業】

神奈川県栽培漁業協会は県水産試験場の事業を昭和六十二年度から毎年マダイ種苗(体長6~8cm)を八十一~百二十万尾(東京湾と相模湾に放流してきた。

放流事業が始まって九年後以降、遊漁によるマダイの釣獲量を調査。年による変動はあるものの、



後藤理事長に目録を贈呈する島野部長

